

1. 略歴

1983 年 3 月	東京大学文学部国史学専修課程卒業
1985 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専門課程修了
1987 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程国史学専門課程中退
1987 年 4 月	山梨大学教育学部講師（歴史学）
1990 年 9 月	山梨大学教育学部助教授（歴史学）
1994 年 11 月	博士（文学）
1997 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2002 年 10 月	スイス、ジュネーブ大学招聘教授（～2003 年 2 月）
2010 年 7 月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本古代史

b 研究課題

古代天皇制、日唐律令制比較研究、摂関期国家の研究

c 概要と自己評価

日本古代の律令制を東アジア世界の中で位置付けることを目的とし、それにともない古代天皇制の解明、敦煌吐魯番文書の研究、摂関政治期の国制の解明を行なっている。長年続けてきた『御堂関白記』注釈の成果にもとづく摂関期研究の成果として単著『藤原道長 摂関期の政治と文化』を出版した。また公益財団法人史学会理事長として、史学会の活動が順調に行われるように努力し、コロナのためオンライン開催が続いていた史学会大会を、2022 年によりやく通常の対面開催とし、理事会として公開シンポジウム「君主号と歴史世界」を企画し、報告を行なった。

d 研究業績

(1) 書籍出版物

[単著]『藤原道長 摂関期の政治と文化』、大津透、山川出版社、2022.11、98p

[共著]『もう一度読みとおす 山川新日本史』上・下、大津透 久留島典子 藤田覚 伊藤之雄、山川出版社、2022.7、224p、216p

[共著]『アジア人物史 4 文化の爛熟と武人の台頭』、姜尚中総監修、「第一章 日本における古典的国制と文化の形成」、集英社、2023.6、628p

[共著]『日本史探究 詳説日本史』、大津透、山川出版社、教科書、2023.3

[共著]『日本史探究 高校日本史』、大津透、山川出版社、教科書、2023.3

(2) 論文

[学術雑誌]「2021 年の歴史学界―回顧と展望― 総説」、大津透、『史学雑誌』131 編 5 号、2022.5、pp.1-5

[論文集（書籍）内論文]「天武朝の年中行事と人麻呂歌集」、大津透、鉄野昌弘・奥村和美編『萬葉集研究 第四十二集 一稻岡耕二先生追悼記念』、塙書房、2023.3、pp.113-132

[学術雑誌]「2022 年の歴史学界―回顧と展望― 総説」、大津透、『史学雑誌』132 編 5 号、2023.5、pp.1-5

[論文集（書籍）内論文]「天皇号の成立と唐風化」、大津透、佐川英治編『君主号と歴史世界』（史学会シンポジウム叢書）、山川出版社、2023.10、pp.69-89

(3) その他各種論著

[総説・解説]「解説」、大津透、山中裕著『藤原道長』、法蔵館文庫、2023.7、pp.273-283

[書評] 吉川真司著『律令体制史研究』、大津透、『史林』106 巻 5 号、2023.9、pp.48-54

[新刊紹介] 倉本一宏・加藤友康・小倉慈司編『『小右記』と王朝時代』、大津透、『史学雑誌』132 編 12 号、2023.12、pp.52-54

(4) 講演・口頭発表

[シンポジウム・ワークショップパネル（指名）]「総合討論、司会」大津透、唐代史研究会夏期シンポジウム「交通と交易」ハートピア熱海、2022.8.24

[口頭発表（招待・特別）]「天皇号の成立と唐風化」、大津透、第120回史学会大会公開シンポジウム「君主号と歴史世界」、東京大学、2022.11.12

[公開講演、セミナー、チュートリアル、講習、講義等]「天皇号と日本国号の成立」、大津透、第27回東京大学文学部常呂公開講座、常呂町公民館、2023.10.6

[口頭発表（招待・特別）]「唐儀鳳三年度支奏抄・四年金部旨符復原補考」、大津透、第三屆沈家本与中国法律文化国際学術研討会、湖州潞村悦柳酒店（中国）、2023.10.28

[シンポジウム・ワークショップパネル（指名）]「コメント」、大津透、東洋文庫創立100周年記念国際シンポジウム「敦煌・吐魯番研究の最前線 その伝統と革新」、東洋文庫、2024.3.3

e その他

(1) 学会・委員活動

[委員歴] 日本歴史学会、評議員、2002.7～

[委員歴] 一般財団法人東方学会、常務理事、2019.6～、国際東方学会会議運営委員、東方学会賞選考委員

[委員歴] 公益財団法人史学会、理事・理事長、2020.6～